

立法

卒業プロジェクト

行政

司法

単元名『学校内の三権分立』

ゴール

「学校のルール」という自分ごと化しやすいテーマに対し、主体的・協働的にプロジェクトを進めながら、納得感をもってルールを守ったり、伝えたりする態度を育てること。

単元の目標

探究的な学習の過程において、課題解決のためには、互いのよさや力を活かしていくことが重要であると理解することができる。

知識及び技能

リサーチやフィードバックから得た情報から、「自分ができること」を考え、相手の立場に立った分かりやすい伝え方でまとめることができる。

思考力、判断力、表現力等

目的意識を持って、最後まで見通しをもちながら粘り強くやり抜こうとする態度を育てる。

学びに向かう力、人間性等

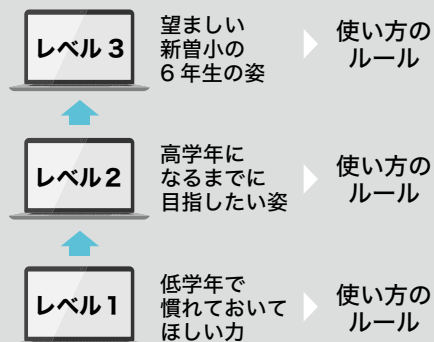
フェーズ①

クロームブックを
レベルアップ型で作っていく

Chromebook の必要なスキルを細分化

児童の中で「望ましい新曽小6年生の姿」が ICT 活用だけに留まらず、新たな課題を発見するフェーズ②へつなげる気づき。

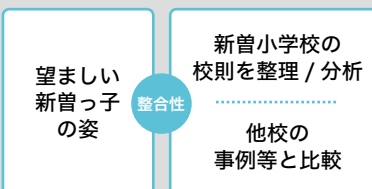
レベル（スキル）に応じたルールを作る



フェーズ②

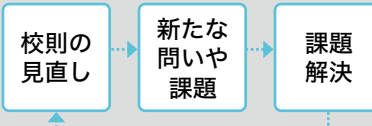
新曽小の校則全体に視野を広げ
職員会議に提案する

整合性のとれる校則を職員会議に提案



学校教育目標との関連を意識

課題解決のためのサイクル



校外に発信することで、自分達の活動と社会の繋がりを感じられる場

フェーズ③

提案が通ったものを整理・分析し
他の学年に改めて校則を紹介する

下の学年に改めて校則の必要性、妥当性を伝える



提案が通らなかったもの



Scratch や Google サイトの活用も想定



児童の実態

道徳でのルールメイキングの学びから

Chromebook は自分たちの学びの道具だから、自分たちでレベルアップできるようなルールをつくりたい。



社会の「国の政治のしくみと選挙」での学びから

学校内では司法権も立法権も先生が握っている状態になっている。学校のルールに関して自分たちで見直すことができるのではないかな。



これまでの成果

児童は第5学年で探求プロセス（課題設定 / 情報収集・整理 / まとめ・表現 / 分析・振り返り）を理解している。



課題

分析・振り返り

協働

ルールへの理解と納得感のギャップ